

サイバーナイフ治療の現在と未来

新緑会脳神経外科 佐藤 健吾 院長

2006年5月、石心会グループに、がん治療の新しい選択肢が加わりました。それは、横浜サイバーセンターで行われている定位放射線治療です。サイバーナイフに関しては、本部では4年前から研究を開始し、機会があれば導入したいと考えておりましたが、今回、医療法人社団新緑会の経営を引き受ける事で実現したわけです。サイバーナイフ治療は今のところ頭頸部のみが対象ですが、近い将来、体幹部治療が承認された暁には、PET(新川崎幸病院に導入予定)によって早期がんを発見し、切らずに治療する事で人類ががんの恐怖から解放されるという夢のような時代が到来するかもしれません。

(編集部)

サイバーナイフ (CyberKnife=CK) の現在

CKと言われても「何、それ。」と言われる方がほとんどだと思います。1994年アメリカシリコンバレー生まれのロボット誘導型の放射線治療器です。病変をピンポイントに狙う定位放射線治療器の一つです。世界中で80施設あり、日本では14台が稼働しています。

私は、前任地の岡山旭東病院で2000年6月よりこの治療に携わり、2005年5月に横浜サイバーナイフセンターのオープンに伴い、異動して来ました。

CKは多くの革新的なところを持っていますが、一番大きな特徴は、患者の固定方法にあると思います。今までの機器では、頭蓋骨を金属のねじで固定する痛い

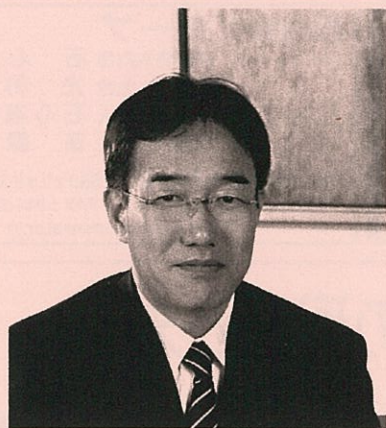
方法が採用されていましたが、CKは病変追尾装置を持ち、患者の治療部位の動きをreal timeに追いかけます。この装置のおかげで、CKの患者固定はプラスチックのマスクで十分です。頭蓋骨に穴を開ける必要がないため、入院も不要です。大きな腫瘍、視神経、脊髄の近傍腫瘍は分割治療と言い、数日間に分けて治療を行う方が安全ですが、CKはこの分割治療にも柔軟に対応できます。

CKは放射線として、直線加速器で作られるX線を用いますが、この直線加速器が従来の物と比べて軽くできています。そのため、6軸関節を有するロボットの腕に装着され、患者の周り50cmの距離を置き、自由に動くことができます。腫瘍の形に

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鷗らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)



〈佐藤健吾院長〉

合わせた治療が可能になったのももう一つの特徴です。

横浜サイバーナイフセンターでの毎日

我々の施設は常勤4人のスタッフで運用されています。脳神経外科医(私)放射線物理士、看護師、秘書(彼女が4人の中で最強です)週半日、横浜市大より放射線治療専門医の先生の応援も受けています。朝8時に放射線物理士の機器の点検から始まり、患者の治療は8時半スタートです。治療に平行し、初診、再診の患者の診療。新たな治療計画も平行して行われます。昼休みは取れません。いつも治療操作室の中で、昼食を食べています。月に40~50人の患者さんの治療です。一日最大12人、17病変まで治療したことがあります。

治療の対象ですが、頭頸部の腫瘍等、脳動静脈奇形に対して保険適応があります。第7頸椎より頭側が適応になります。治療費は、腫瘍の個数、分割回数にかかわらず63万円になります。この費用にはCT、MRI、造影剤、固定用フレームの代金も含まれます。患者への負担は63万円の1~3割負担になり、高額医療の対象でもあります。

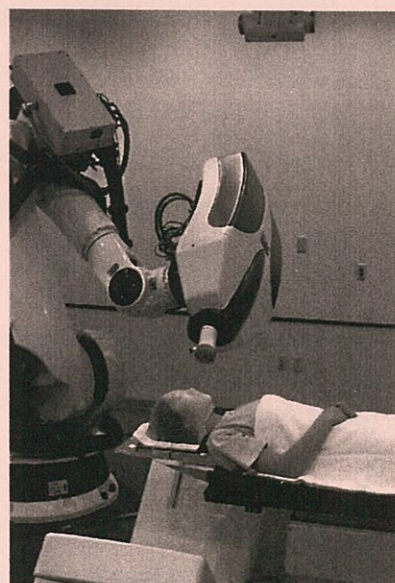
横浜サイバーナイフセンターでは、これまで500人の患者の治療をしてきましたが、転移性脳腫瘍45%、神経膠細胞種10%、良性脳腫瘍30%、脳動静脈奇形5%、

頭頸部腫瘍10%の比率です。

CKの未来

世界で80台、日本で14台のCKが動いていますが、日本のCKの立場だけが特殊です。厚生労働省の規制の問題で、頭頸部しか治療が許されていません。これは、規制の問題なのですが、その認可の手続きもお役所仕事で遅々として進んでおりません。日本以外のCKは体幹治療もでき、肺癌、肝癌、膵臓癌、前立腺癌、胸椎腰椎腫瘍の治療を行っています。最近CK以外にも体幹治療ができる機器が日本でも利用できるのですが、それ以前は、私は、体幹治療の必要な患者で、ご希望があれば、韓国のCK施設に治療を依頼しておりました。CKの体幹治療の認可ももうすぐだと信じておりますが、動きの遅い厚生労働省を動かす最大の力は患者の声です。多くの患者の方々が、要望書を出して下さっています。我々も、近い将来、体幹治療が認可されることを期待し、準備中です。

日本の癌患者で、放射線治療を受けられる患者の割合は非常に低いのです。これは、施設、治療医の不足にあります。放射線治療に携わる者の啓蒙活動の不足にも原因があると思います。一介の脳神経外科医の出る幕ではありませんが、横浜で「CKは頑張っているんだぞ」と声を上げ続けたいと思っています。



〈サイバーナイフ〉

川崎幸病院

第1回 2005年度ハイチャレンジ目標発表会

川崎幸病院 医療安全管理課長 今村 寿彦

全職員が患者さんに対し他の病院にはない「質の高い最高のサービス」を自発的に、より良い病院をめざし、さらに、職員相互間のコミュニケーションによる職場意識の高揚を目的として「ハイチャレンジ目標」を設けた。参加者が多い為2日に分けて発表しました。2006年5月22日発表者9名参加者45名。25日発表者12名参加者50名。審査結果の発表は6月19日に行った。病院三役の厳正な審査の結果、

【団体賞】

最優秀科賞：内視鏡科「めざせ！偶発症0%」

優秀科賞：検査課

特別科賞：CE科・2階北病棟

【個人賞】

最優秀個人賞：リハビリ科青山幸江

「口腔ケアの取り組み」

優秀個人賞：医療相談科 小林久美子

2階北病棟師長 早坂恵子

特別個人賞：リハビリ科 岩城文子

3階北病棟 山口貴徳

が表彰を授与された。

〈最優秀科賞 内視鏡科長 渡部博一〉

今回、我々の取り組みを最優秀賞として評価していただき大変光栄に思います。「内視鏡偶発症軽減」を目標にしたのは、当院でのポリプ切除後、出血が全国平均を上回る2%に及んでいたからです。原因は退院指導の注意事項が徹底されずに飲酒や運動により後出血を起こすことでした。聞き取り調査を元に指導の際、家庭問題や趣味にまで話題を広げ注意事項の徹底を図ったところ、0.8%まで偶発症の軽減に成功しました。こうした点が評価され、今回の挑戦が患者さんの利益に通じたのが何よりと思います。今後も果敢に挑戦し、よりよい医療の実践に努めたいと思います。

〈最優秀個人賞 リハビリ科 青山幸江〉

院内での「口腔ケアの取り組み」で今回「最優秀個人賞」を戴きました。口腔ケアは「リハビリの一環」ということから始めたのですが、進めていくうちに、リハビリという枠組みだけでなく、全身に関係してくるという事を知り、継続しているうちに数年経っていました。今回この様な形で認めていただけたのは、口腔ケアの必要性や重要性などを共に考え取り組んで下さったスタッフがいたからこそ出来たことなのだと思います。これからも、知識の習得や技術の提供に努め、スタッフや患者さんへ還元していけるように今後も努力したいと考えております。

〈岩井院長と記念写真〉

右：リハ科 青山幸江

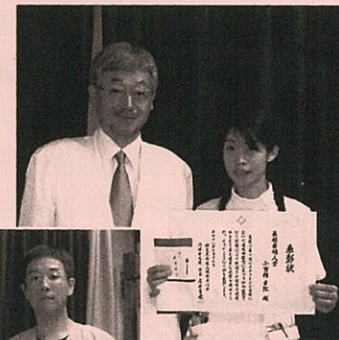
下：内視鏡科

渡部博一科長

井上芽久実

(大房彩乃)

最下：授賞者一同



地域連携パスへの取り組み

狭山病院 地域医療連携室長 田中 利明

狭山病院地域医療連携室について

連携室は、開業医・近隣病院の医師からの紹介患者依頼を直接受ける窓口です。6名の事務職員で月に1,000件以上の紹介のケースに対応しています。検査、受診、入院のために院内のベッドの確保。医師、看護師等スタッフがスムーズに受入れをできるように調整をしています。その結果、患者さん、地域の医師が当院を始め地域の医療を有効にそしてスムーズに利用できることを目指しています。

連携室が診療報酬改定で今回新設された地域医療連携診療計画管理料算定(大腿骨頸部骨折連携パス)のまとめ役になりましたので報告します。

大腿骨頸部骨折連携パス作成と連携病院

連携病院と当院で1つのクリティカルパスを作成する必要がある、第3回病連携懇談会を4月14日に開催し地域連携パスの相談を行いました。懇談会には地域完結医療をめざす24病院の患者窓口担当者42名が参加し、複数の連携病院の希望がありました。

院内では整形外科部長、同副部長、事務部長、MSW、リハビリテーション室、3南看護師、デイスチャージ看護師、患者サービス課、地域医療連携室でパス作りの検討を重ねた結果、連携病院候補を2つに絞りました。その後6月14日にリハビリテーション室長、ソーシャルワーカー室長、連携室田中で2つの病院を見学し、地域連携パスへの

対応を確認し、院内会議を経て所沢ロイヤル病院(所沢市)・富家病院(ふじみ野市)を連携病院としさらに霞ヶ関南病院(川越市)を加えました。第1回地域連携診療計画管理料(大腿骨頸部骨折連携パス)情報交換会を連携病院と当院で行い、連携病院から活発な意見をいただき、この連携パスを完成することができました。尚、パスはホームページに掲載予定です。

狭山病院では7月末に県に届出を行い8月から実施をします。この地域連携パスがスムーズに稼動することにより、患者は専門の急性期医療を受けた後、スムーズに連携病院へ転院することができ手厚いリハビリをうけることが可能となり、患者主体の医療を一步前へ進めることができます。

地域連携パスは現在の保険では一種類(1,500点)のみの認可ですが、今後は脳疾患・心疾患などへ認可が拡大される見込みです、今回はその試金石と成ります。



第56回日本病院学会にて表彰された

狭山病院リハビリテーション室研究発表抜粋

〈編集部〉

狭山病院コメディカル部リハビリテーション室研究発表が第55回日本病院学会の優良演題に選ばれ、7月7日の第56回日本病院学会開会式にて表彰されました。発表者の相良貴義が、優良演題発表者5名の代表として、日本病院学会長より表彰を受けましたので紹介します。



■回復期リハ病棟を選択しない総合リハビリテーション施設の運用

～診療報酬の比較、運用の可能性～

リハビリテーション室：相良貴義係長、高杉栄室長、中村沙織、武者ひとみ、山田順子、田中島早苗

事務部：持田和夫事務部長

平成16年5月に総合リハビリテーション施設Bを取得し、西棟1階にリハ室、2・3階に一般病棟「リハ中心棟」をスタートした。「リハ中心棟」は「回復期リハ病棟」の規模、人員、施設を持ちながら、敢えて一般病棟として運用してきました。この運用についての考察です。



〈リハ中心棟〉

【方法】：無作為に選んだ3日間、延べ920症例の診療報酬点数を調査した。

その結果、病院全体点数は5,239点、「リハ中心棟」は2,726点、「回復期リハ病棟」を仮定した予想点数は2,382点であった。報酬点数は「リハ中心棟」の運用をした現状の方が多い。

【考察】：「回復期リハ病棟」と比較して「リハ中心棟」を考える。

1. リハ入院以外に全ベッドで急性期患者の受け入れが可能と成り、急性期病院としてベッドの有効利用ができる。
2. 在院日数を別の手段(日帰り手術、PCIの増加など)で減少できている。
3. 周囲にリハ病院が多く地域医療の主幹を目指す当院は、急性期医療に専門特化すべきと考え、現運用を継続予定である。また総合Bを取得した事で報酬点数は増加し、スタッフを増員でき病棟でのADL訓練等が充実された。リハ室と病棟が隣接した事で看護師との連携も強化され、回復期リハ病棟が目的とするものを、当院「リハ中心棟」は充足しつつあります。



〈カンファランスの様子〉

★トピックス①

川崎地区医師懇親会を開催しました。

6月5日月曜日、日航川崎ホテルにおいて石心会グループ川崎地区医師懇談会が開催されました。当日は各施設の院長、医師をはじめ各施設事務長が参加し、盛況のうちに執り行われました。まずはじめに、石井理事長から「各施設の特徴を生かした医療を推進しつつ、グループ内の連携をさらに促進したい」との挨拶があり、これに引き続き各院長、各科長の現状紹介と今後の展開に関する抱負が述べられました。この懇談会は3回目を迎えますが、今回は新たに新緑会各施設が加わり、さらに発展充実したものとなりました。参加者からは「この懇談会は医師間の連携促進に大いに役立っている。今後も定期的に開催して欲しい」との声が多数聞かれました。



★トピックス②

川崎幸クリニック小児科診察室の増設について

川崎幸クリニック事務長 織茂 和洋



当川崎幸クリニックの周辺居住者の構成がこの数年間で大きく変化し、高齢化が進む一方、新たに

立ち並び始めたマンション群への入居者による若い世帯の増加が受診者調査にも著明に表れてきた。

特に小児科においては、地区により年度対比で400%以上の増加率を示し、周囲からも期待の声が聞こえ始めた。状況が深刻化する前に対処する為、医師及び

スタッフの補充、診察室の増設を同時並行で行い、平成18年5月より小児科2診体制を開始した。新設の診察室は元フィルムを改装し、診察室と観察室(点滴、吸入等)の2部屋構成で、ベビーカーでも容易に出入り可能な様、空間も配慮した。冬季のフル稼働時には、1日の対応は50~60名(1診につき)を予定しており、予防接種の迅速対応等にも期待が持てる。



《趣味探訪》

僕の大好きなクラ～リネット ♪

狭山病院 総務課係長 杉原 千栄

私が中学2年生の春に吹奏楽に出会いました。貧血でバスケット部を退部したものの、必ず部活動に所属しなければならなかったし、ピアノを習っていたので譜面が読めるという簡単な動機で、とりあえず吹奏楽部の見学に行ってみました。見学の初日の練習の時、はじめは音だし、パート練習を見ている限りでは、楽器が吹けるようになるのかなあと不安でしたが、合奏練習になった途端、間近で聴いた音は、40人もの奏者が指揮に合わせて一斉に楽器を鳴らす、ものすごい迫力でした。うまいへたは全然分からなかったけれど、不安よりも、「一緒に吹けるようになりたい!」と思いました。即日入部し、クラリネットを吹くことになりました。



〈クラリネット演奏中〉

皆さんはご存じでしょうか? 見た目は黒くて細長く縦笛を少し大きくしたような楽器です。コンパクトですが、意外にも管楽器の中ではチューバの次に肺活量を要する楽器とされています。リード楽器といって、マウスピースにつけたリード(植物の「あし」を薄く削ったもの)を振動させて音を鳴らします。リードにより音の質や吹きやすさが全然違ってきます。リードは消耗品であり、だいたいの場合1箱に10枚入りで1,500円~2,000円で売っていますが、1枚も当たらないこともよくあります。納得いく1枚がようやく見つかって使っていても半年くらいもてば良い方で、泣く泣く次の1枚を探し求めるため、お金もかかります。「リードが無い!」(よいリードに巡り会えない!）、クラ吹きにとっては死活問題。クラリネットは吹奏楽の中でオーケストラで言えばバイオリン、ビオラ、チェロのような役割をします。音色に安定感があり調和しやすく、指が簡単にまわるようにできているかららしいけれど、私は指が簡単にまわる楽器だと思ったことは1度もありません(かなり難しい!）。人数は楽団によりますが、10人以上になることもあります。オーソドックスな編成の曲では3パートに分かれてそれぞれのパートを吹きます。どの楽器よりも休みがなく忙しい仕事をしています(おそろく)。おいしいメロディーも多い反面、地味で目立たないのにやたら難しい伴奏や和声といった裏方もこなします。譜面はいつも音符がぎっしり盛りだくさんで真っ黒け、連符のオンパレード。低音楽器の2~3倍もページ数が多いことも。その上、大勢で息を合わせなければならぬので大変です。仕事量も多いのでこつこつ地道な譜読みと、なおかつ他との調和を要求される楽器ですが、必死こいて練習してうまくなるとちょっと楽しい。みんなの息が合ってくると更に10倍楽しくなります。

現在、私はアミューズ・ウィンド・オーケストラ(以下、アミューズ)という吹奏楽団に



〈第9回定期演奏会 本番前、最も緊張の時〉

所属しています。アミューズは、私の出身大学である東京国際大学の吹奏楽団(埼玉県川越市)の卒業生と現役学生との演奏を通じた交流を図りながら活動を行っている楽団です。活動は、毎年2月の所沢ミューズでの定期演奏会、川越百万灯祭り、夏のポップスコンサートなど。基本的に練習は月2回、土曜日の午後ですが、演奏会3ヶ月前くらいは、土・日・祝日も当然あります。土・日連続もしばしば。定期演奏会の

3ヶ月前くらいから、指揮の先生の厳しさも増していき、「そんな演奏したら作曲家に失礼だ!」と一喝されます。このメロディーおもしろいな、こう吹けたらな、と思いつつも、やってみるとなかなかスムーズに指がまわらないし、音程、息の使い方、タイミング、音の大きさ、音色のやわらかさ・・・思い通りに行かない、練習しなきゃ・・・。仕事から遅く帰って疲れきっていても、1Kのアパートで音を出さずにさみしく「こそれん」(こっそり練習するの略)。これをやらないとひとり置いていかれちゃいます。本番には「おまえは手塩にかけた自慢の娘だぞっ」といって嫁に出してあげたいので、今は苦しみにも耐え、大切に育てています。

アミューズの練習後は、もちろん仲間との「反省会」。最近の行きつけはお好み焼き「ゴン太」。出会いは3年ほど前、お店に定期演奏会のポスターを貼らせてもらえないかとお願いしに行き、せっかく貼らせて頂いたのとお礼にお好み焼きを食べたのがきっかけです。今では演奏会には必ず足を運んでくれるゴン太のおっちゃんは、阪神タイガースが勝った日と定期演奏会の打ち上げのときは上機嫌で焼酎の一升瓶を大サービス! 私たちは絶品の「納豆焼き」と焼酎、気の知れた仲間との語らいの時間でおなかもちもち満たされます。

この4月に10年ぶりに「クラリネット界の巨匠」カール・ライスターを聴きに、東京オペラシティに行ってきました。彼は、69歳になってもなお「ブルゴーニュ地方の赤ワインの様な、朗々と響く、暖かく、深い音色を追求している」らしい。そんなイメージで音を出すのか。何年も熟成されてより深みを増す。私の音はまだまだ若いな。私もいい音のために赤ワインを飲まなきゃ。いつも完全に飲まれているけど。

最後に宣伝です。アミューズの第11回定期演奏会は、平成19年2月17日(土)所沢ミューズ、13:00会場、13:30開演、入場無料です。興味をもって頂けた方は、是非お越し下さい。お待ちしております。



〈「ゴン太」での反省会にて〉



さやま総合クリニック ヘルシーコンサート

・4月8日(土) 開院4周年記念特別コンサート『桜コンサート』

出演: トニーストリングス

曲目: ブ람ス「ハンガリア舞曲」

ベートーヴェン「スプリングソナタ」

ハイドン「ピアノソナタ62番」

マンシーニ「ひまわり」

古謡「さくらさくら」、他



★トピックス

【川崎幸病院】

- 4月5日 川崎幸病院・川崎幸クリニック合同新人オリエンテーション開催 参加者57名
- 4月13日 川崎消防署との救急受入に関する意見交換会開催
- 4月17日 ジェネリック薬品導入に向けての院内説明会
- 5月12日 聖マリアンナ医科大学付属病院・教授以下4名が見学来院
- 5月22日 『平成17年度ハイチャレンジ目標』実績発表会(6/19優秀者表彰→特集参照)
- 6月中 リハ室拡張、及び透析室、エコー室等工事。
- 6月1日 DPC対象病院としてスタート
- 6月5日 川崎幸病院主催『石心会グループ川崎地区医師懇親会』開催。新緑会も参加。
- 6月17日 平成17年度実績&平成18年度目標発表会 参加者70名
- 6月20日 一宮西病院・院長/経営企画部長が見学来院
- 6月22日 資格取得者お祝い会
- 定例救急隊勉強会開催(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
 - 5月31日・6月7日 『医薬品と急性中毒』(講師: 西山雅巳薬剤科長)
- 院内勉強会 6月30日 『消化器癌治療戦略'06』(講師: 副院長兼外科部長/関川浩司医師)
- 登録医勉強会
 - 4月8日 『胸部画像診断における症例検討』
 - (講師: 横浜市立大学附属病院放射線科助手/長嶋敏幸医師)
 - 6月29日 『消化器癌治療最前線から終末期医療まで』(講師: 副院長兼外科部長/関川浩司医師)

【狭山病院】

- 4月1日 内分泌代謝科認定教育施設認定
- 4月1日 狭山地区事業所新入職員オリエンテーション 参加者78名
- 4月1日 平成18年度診療報酬改定にともなう施設基準届出(21項目)受理
- 4月5日 薬剤システム稼働
- 5月8日 ふれあい看護体験 参加者12名
- 5月9日 E C C (エマージェンシー・クリティカル・ケア)委員会発足
『病院内外において、急変時における対応能力の習得と向上を目標に、トレーニングプログラムの作成、院内コース(E C Cコース)の開催を目的とする。』
- 5月21日 新入職員歓迎バーベキュー大会 参加者264名(内185名職員)
- 5月23日 嗜好調査実施(入院患者対象) 回収率69.9%
- 5月25日・26日 嗜好調査実施(クリニック透析患者対象) 回収率81.2%
- 6月1日 疾患別による包括評価制度(D P C)導入 6月入院患者の60.5%が包括請求対象者
- 6月4日 研修医のための後期研修病院合同セミナー参加(横浜)
- 7月1日 4階北病棟の2床を重症者等療養環境特別加算の届出
- 7月6日 4階北病棟、西病棟病床変更
- 院内勉強会
 - ・ 4月6日 勉強会『漢方薬の概論』 参加者29名
 - ・ 5月13日 看護部ケースレポート発表会(演題数22題)
 - ・ 5月29日 勉強会『睡眠導入剤の使い分け』 参加者40名
 - ・ 6月12日 勉強会『院内感染の基礎』 参加者47名
 - ・ 6月20日 平成18年度 研修医対象モーニングセミナー開始(火曜日 7時30分～8時30分)
 - ・ 6月23日 勉強会『院内感染の基礎』 参加者47名
 - ・ 6月27日 勉強会『褥瘡ケアについて学ぶ』 参加者58名
 - ・ 6月29日・7月7日 勉強会『MR I 安全講習会』 参加者97名
- 地域医療連携・公開カンファレンス
 - ・ 4月14日 病・病連携懇談会 出席者42名
 - ・ 5月12日 PET、PET/CTが悪性腫瘍診断の決め手となった症例、ならびに保険適用拡大のポイント(講師: 圏央入間クリニックセンター長/宮内勉) 参加者40名
 - ・ 6月23日 心臓血管外科における諸手術紹介(講師: 心臓血管外科部長/木山宏) 参加者34名

【川崎胃腸病院】

- 6月20日・27日 医療事故防止セミナー

【川崎幸クリニック】

- 6月17日 うるおいコンサート 弦楽四重奏「アメリカ」より 第1楽章・第4楽章 他
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
 - ・ 4/20,21 参加計19名
 - ・ 5/18,19 参加計12名
 - ・ 6/8,21 参加計15名
- 食事の教室 管理栄養士
 - ・ 4/22 『入院食を食べてみよう!』～1食480kcalは、どのくらいかな?～ 参加者14名
 - ・ 5/25 『高脂血症予防』～油脂のとり過ぎに注意～ 参加者20名
 - ・ 6/15 『パスタの会』～西洋料理専門調理師が腕をふるまいます～ 参加者11名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。 参加者10名
 - ・ 第1回 『糖尿病とは』 4/11 5/9 6/6
 - ・ 第2回 『合併症と日常の注意点』『足の手入れについて』『検査について』 4/18 5/16 6/13
 - ・ 第3回 『薬物療法』『運動療法』 4/25 5/23 6/20
 - ・ 第4回 『食事療法』 5/2 5/30 6/27
- 外来栄養教室 6月26日 『豆製品の栄養効果と摂取量』
～☆大豆イソフラボンって?★白いんげん豆は安全なの?(主催:栄養室)

【アルファメディック・クリニック】

- 5月8日 人間ドック専門施設として川崎テックセンターにオープン

【川崎健診クリニック】

- 5月8日 定期健康診断専門施設としてオープン

【オリーブ】

- 4月27日 ピアノコンサート 田端優花 参加者52名
- 6月28日 歌のコンサート ジャスシンガー伊藤大輔 参加者47名

【新緑会】

- 石心会グループの一員となる

【在宅部門】

- 4月1日 かしまだ地域包括支援センター開設